

平成29年度英語科海外ホームステイ研修報告 7月31日（月）

本日のブリスベン郊外は街全体が霧に包まれましたが、例日と比べると気温はあまり下がらず、気持ちの良い朝を迎えました。空気が乾燥している為、喉を傷めている生徒が数名いますが、欠席することなく全員元気に登校してきました。そして研修開始以来、初めて全員が「しおり」を提出する事ができた朝でもありました。

週明けの月曜日という事で、生徒たちはこの週末を家族と一緒にどう過ごしたかという話を持ちきりでした。ファミリーとゆっくり過ごせる最後の時間、多くの生徒たちは悔いを残すことなくこの週末を満喫したようです。その過ごし方は実に様々で、それぞれの家庭にドラマが生まれていました。バスと電車を乗り継いで、バディーお勧めのショッピングモールに行った生徒や、自分の名前の由来を伝え、家族の名前を漢字で考え交流を図った生徒もいれば、自分の要望を伝えビーチに連れていってもらった生徒など、まさに十人十色の楽しみ方をしたようです。また、ファミリーから何かをしてもらったら必ず“Thank you.”を伝え、マナーとして感謝の気持ちを示す重要性を教えてもらった生徒もいました。失敗しながらも小さな成功体験を積んだこの週末は、今後の生徒の自信に繋がる貴重な時間だったと思います。もちろん、家族の都合で特に外出せずに映画などを見て過ごした生徒もいます。しかし、ここで他の友人と比較せず、この状況をどう楽しむかを考え、時間を有意義に使うよう気持ちを切り替えた生徒の姿に大きな成長を感じました。研修が始まった1週間前とは比べものにならないほど家族との距離が縮まったのは、生徒自身が一番実感しているはずで、自分の気持ちや行動次第で結果は変わり、大切なのは相手はどうこうではなく、全ては自分次第という前向きな姿勢を、生徒たちはファミリーとの交流の中で学んだのではないのでしょうか。

今日は午後クイーンズランド大学を訪問し、ソーラーエネルギーシステムについて学ぶ予定だったため、午前の英語レッスンではそれに向けての事前学習を行いました。しかし、週末を思いっきり満喫した生徒たちは少々疲れが見えていたので、Joshua先生のクラスでは、レッスンの前半に体を動かすアクティビティーで眠気を吹き飛ばし、生徒たちのスイッチを入れかえていました。Peta先生のレッスンでは日本昔話「かぐや姫」を英語で説明する内容に、徐々に生徒たちの意識も通常に戻ってきました。Peta先生からは、「生徒が少しずつシャイの殻が破れて、積極的になってきている。」と褒めて頂きました。その後、環境についてのボキャブラリーを中心に学び、バディーとのMorning Tea、ランチを楽しんでから13時30分頃にホスト校Livingstone Christian College (LCC)を出発しました。バスの中では、研修も終盤ということもあり、多くの生徒が目標として掲げている「積極的になる」ということに触れ、この機会を無駄にしないこと、発言することの大切さについて改めて伝えました。

クイーンズランド大学は、クイーンズランド州で最古の総合大学で、オーストラリアでトップ8大学の一つであり、世界中から優秀な学生が集まって学んでいます。大学到着後、日本の大学とはまた異なった、緑豊かで雰囲気のある美しい建物と広大なキャンパスに生徒たちの視線も釘付けでした。

ここでは3名の大学生が郡高生のために来てくれて、2つのグループに分かれキャンパスツアーを実施しました。日本語を学んでいるという学生と、英語と日本語がミックスされた会話のキャッチボールを楽しむ生徒。言葉を交わすことにより、異なったバックグラウンドを持つ人とも意思疎通ができる喜びを肌で感じていたように思います。



クイーンズランド大学は巨大な太陽光システムを設置しており、その一つである工学部の棟を訪れました。太陽光発電により、二酸化炭素排出量を大幅に削減することができ、館内の冷却や水道、日中のキャンパスで必要な電力の一部を供給しています。ここで、大学生による環境についてのクイズが行われ、生徒たちも楽しみながら参加することができました。また生徒から大学生について質問する場面もあるなど、少しずつ「積極性」を意識した姿勢が見受けられ、とても嬉しく感じました。





明日はいよいよ、LCCで過ごす最後の日となり、さよならパーティーでのプレゼンテーションを予定しています。最後まで全力でやり切る研修になるよう、後押ししていきます。